ソデイカ漁業技術交流会報告書

長嶺　　巌

1. 目　的

ソデイカ漁業の先進地である兵庫県但馬地区漁業者との技術交流を通じて、漁具、漁法の改良及び鮮度保持の向上を図る。

2. 交流地

兵庫県香住町漁協

竹野浜漁協

（株）脇漁具製作所

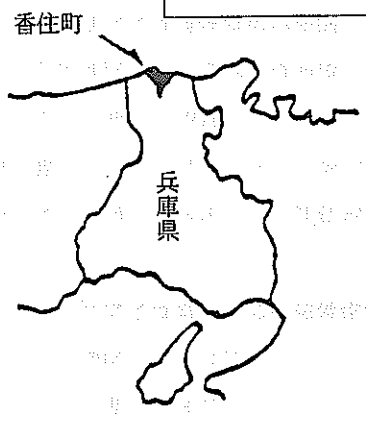
3. 日　程　　平成３年９月19日～21日

4. 参加者

糸満漁協	青壮年部	上原正勝
	〃	大城　迪
	漁業振興会	大城亀市
	漁協販売課	上原勝次
（引率）水産業改良普及所		長嶺　巌

5. 交流地の概要及び交流内容

面積	137.14 ㎢
南西	21.1 km
南北	14.3 km



香住町は兵庫県北部、但馬海岸のほぼ中央に位置し、出入りに富んだ海岸線は良港を形成し、日本海漁業の中心地となっている。

水産業は香住町の基幹産業として長い歴史を持ち、香住・柴山の二大漁港を背景にして発達してきた。

平成２年度においては12,842トン、68億円の漁獲をあげている。又、水産加工業は一次加工が主で、地元で水揚げされる魚の他、全国各地より原料魚を移入し、加工を行なっている。

農業においては、米作が中心であるが、昭和48年に自然休養村に指定され、二十世紀梨の生産とともに観光農業も行なっている。

又、岩礁と砂浜がおりなす山陰海岸国立公園の海岸線と、円山応挙一門の絵画（大乗寺）を持つ香住町は、観光の町としても脚光を浴びている。

6. 交流内容

9月20日　午前6時に起床して香住町漁協のセリ市場を視察

市場では、但馬水産事務所、水産業改良普及員の山中健志太郎氏が案内してくれた。市場には、大型カニカゴ漁船、底曳網漁業でとれたベニズワイガニや、甘エビが300ｍほどのセリ場に所狭しと並べられ、1山ごとに次々セリにかけられる光景は壮観でもあり、年間の水揚高が50億円～70億円との説明に納得した。ソデイカの水揚げは、荒天で出漁船がなく視察出来なかった。

午前9時から香住町漁協の事務所3階会議室でソデイカ漁業の技術交流会を開催。

香住町漁協の参加者

漁協専務　西川享一　　指導漁業士　伊藤久一

イカ釣り漁業者　　小西良明　　岩田　寛

漁協前参事　　谷岡　薫

但馬水産事務所技師　山中健志朗

研究員　岩佐隆寛

(1) 兵庫県水産試験場の岩佐研究員から但馬地区4漁協のソデイカ漁業について報告

(イ) ソデイカは、もともと南方系のイカで、黒潮に乗って日本海に入る。対馬暖流（黒潮の分流）の強弱によって流量の多い平行型の年は豊漁になり、蛇行型の流れの年は不漁になるため、漁獲量の年変動が激しい。（兵庫水試資料　図1）

(ロ) 水温は、100ｍの水深で11度～15度の範囲に多く漁獲され11度以下になると、弱って浜に打ち上げられるか、死亡するとのこと。（沖縄水試のデーターと一致している。）

沖縄県の500ｍ水深の水温が11度～17度で沖縄県のソデイカ漁場の水深が500ｍ～1000ｍに対し、兵庫県日本海の漁場は100ｍ～200ｍが主漁場との説明であった。

ハリセンボン（アバサー）も夏場黒潮に乗って日本海に入ってきて冬場には死んで大量に浜に打ち上げられるようでもったいない話であった。

(ハ) 但馬地区4漁協のソデイカの漁獲量は別紙表1のとおり。多い年で325ｔ、少ない年で14.3ｔである。以上研究員の報告

(2) 漁具・漁法について、兵庫県指導漁業士伊藤久一氏が説明。

香住町漁協のソデイカ釣漁業は、昭和33年に隣の竹野漁協から導入した。

香住町漁協の場合は、スルメイカ釣りとの兼漁で、スルメイカが多い場合は、スルメイカ漁をやって、少ないとソデイカ漁に切り替える。

漁具は、一途缶サイズのハッポウスチロールに赤布をかぶせて浮きにする。（脇漁具製作所製品）

幹縄は、スーパートト糸35号から40号を100 m、連結はクリップ大を使用している。幹縄の収容方法は、木箱に収納し、枝縄部分は、月型おもり60匁～100匁にニュウクロの20号を7 m～15 mの枝縄を付け、別のカゴに収納している。疑似餌は、あらかじめ、タライの水に浸けて漁具投入時にクリップで連結する。

1漁具に、疑似餌は1個を使用、1漁船当たり50～100漁具をしようして操業しているとの説明。

〔漁場及び操業方法〕

漁場は、香住漁港から25～30マイルの位置で、漁場到着後北に向ってスローで漁具を投入する。（日本海の潮は東・西に走る）

漁具の間隔は、100 m～150 m、操業は昼のみで、イカがかかると浮きが立つので巡回しながらベビーホーラーで巻き上げる。

漁期はお盆過ぎ（8月中旬）から操業開始し、12月の上旬で終了する。イカのサイズは3 kg～5 kgが多く、最大でも12kg。使用漁船は、5 t程度　1人操業である。

〔鮮度保持と流通について〕

兵庫県の小型イカ釣り船は、ほとんど小型冷水機を使用している。魚艙内の温度は、5から7度に保つため温度管理に気を使う。温度を下げると、表皮の赤い色がでにくい。表皮は赤く、身はすきとおった方が高値で取引される。販売方法は、ハッポウスチロール魚箱に1尾ずつ入れてトラックで名古屋、大阪の市場に運びセリにかける。年間平均の価格は1500円／kgでサイズの大きい方が高い。　以上伊藤氏の報告

質疑応答

質問……漁具のもつれはあるか。

答え……疑似餌を2つつけるともつれるので、一本付にして漁具をたくさん使用した方がよい。

質問……スミ口はしばらないか。

答え……しばらない、釣りあげて、スミを充分はかせてから魚艙にいれる。

質問……漁探反応はでるか。

答え……漁探反応についてはためしたことがない。

質問……白布巻き以外の疑似餌を使ったことはあるか。

答え……白以外の色をつけるとくわない。

質問……水氷を使ったことはあるか。

答え……冷水機が導入される前は使っていた。イカ類はすべて同じで真水で造った氷がとけたり、氷が直接触れると表皮が白く変色するため値段が下がる。

その他質問は多くでたが、沖縄の報告、兵庫の質問は省略します。その後、小西氏の漁船に案内してもらい、漁具や小型冷水機を視察、そこでも香住の皆さんには懇切丁寧に説明してもらった。大変ありがとうございました。

7. 脇漁具製作所（ソデイカ疑似餌製作所）視察

脇漁具は、昭和49年糸満漁協喜屋武漁業研究会がソデイカの視察に行ったことのある、兵庫県城崎郡津居山漁港の隣にあり、イカ漁具メーカーとしては日本海側で最大手の会社である。

社長の案内で、ソデイカ漁具製作の工場を見学、全部おばさん達が手作業で疑似餌を製作していることには感心した。

その後、ソデイカ疑似餌を最初に考案した竹野漁協の組合員、榎本勇氏ほか３名の漁業者と竹野浜漁港で交流会を行った。

竹野浜漁協イカ釣り漁業研究会参加者

永田金彦　後藤良則　榎本　勇　仲西与志雄

榎本勇の所有漁船　初日丸の漁具、装備を視察、船上で意見交換を行う。

竹野浜漁協のイカ釣漁船は、５ｔ未満の沿岸イカ釣りと50ｔクラスの沖合イカ釣りが盛んで５ｔ以上のイカ釣り漁船は許可漁業、未満は自由漁業で京都や鳥取の漁場と入会になるとのこと。

操業方法は１人乗りで２泊３日の操業が多い。昼間は、ソデイカ、夜間はスルメイカ漁を営んでいる。

漁具は、香住町漁協と違って、１漁具に疑似餌を２個付けて操業している。漁具のもつれは、潮が逆になった場合に多い。漁具のもつれを少なくするために、２個の餌疑につめるワタの量を調整する。またワタにかぶせる白布の縫目を荒くして、ワタからエアーが抜けやすいかを風呂おけにいれて確認してから使うともつれが少ないとの榎本氏の説明には感心した。

研究会の会員は、エギは自分達で自作してガギだけ脇漁具から買っているとのこと。

エギにキンランを付けたり、光る物をつけて試験しているが効果はよくない。久米島漁協でもキンランを付けても効果は出なかったことを話した。

使用漁具数は、１隻80から100漁具使用し、漁場到着後北に向かって漁具を投入する。操業船の間隔は、最初に漁具を投入した漁船から0.5マイル以上離れて操業している。

サメ、イルカの食害が多いとのこと。

鮮度保持については、香住と同様、日立製の小型冷水機を使用しているが、魚艙内温度は０度～５度が良い。温度が５度以下の場合、魚艙内ではイカの表皮は白いが陸揚し時間がたつにつれて真っ赤な色になり、肉の透明感がでるとの説明であった。

今後、小型冷水機（改善資金の該当機種で80万円程度）の導入を検討する必要があると思った。

竹野浜漁港での交流は、榎本さんをはじめ研究会のメンバーが熱心に意見交換して頂き、貴重な交流ができたが時間の余裕がなくお互い残念に思ったまた近いうちに交流したいとの研究会のメンバーの心遣いに心をうたれて竹野をあとにした。

最後に、香住町漁協の皆さんや脇漁具の社長さん、竹野浜の研究会のメンバー、受入れにご尽力下さいました兵庫県但馬水産事務所の職員に感謝申し上げ、技術交流が継続することを願って研修報告と致します。